

# 接合金物情報の追加へ

## 藤澤理事長を再任

### シーデクセマ評議会

シーデクセマ評議会（東京都、藤澤好一理事長）は8日、東京都内で第9回通常総会を開き、役員改選では藤澤理事長を再任した。藤澤理事長は「CED XMは、建築CADと

様々な可能性が出てきたと語る藤澤理事長



構造CAD、プレカットCADのデータ連携から、さらなる連携を進め、倒壊シミュレーションソフトのウォールスタットとの連携で、見える化機能などを新たに加えた形で発達してきた。これからも基本性能、構造安定性、見える化、生産履

歴情報などを含め、活用していけるよう取り組みたい」とデータ連携の可能性を示した。

同評議会は、プレカットCADと意匠CADのデータ交換のファイル形式の標準化を進めるために約9年前に設立された。3年前から、中川貴文国土技術政策総合研究所主任研究官が開発した木造住宅の倒壊シミュレーションソフトのウォールスタットとの連携を進めてきた。

ウォールスタットはコンピュータ上で木造住宅の震動台実験を再現できるもので、特に熊本地震以降、その活用が注目されてい

る。CED XM連携でプレカット加工データをそのままウォールスタットに利用できることで利便性が高まり、一部の住宅会社では施工との打ち合わせ段階でウォールスタットを利用し、コストと耐震性能を比較検討しながらプランを決定するところも現れている。

住宅会社の関心が高

まるなかで、昨年は広島、埼玉、名古屋3会場でカンファレンスを実施。今期も同様のカンファレンスを仙台、大阪、福岡の3会場で開催している。今期の事業として接合金物情報を追加するためバーションアップして、よ

り高い精度で倒壊シミュレーションができるように開発を実施する。ウォールスタット導入時のマニュアルとして使える「ウォールスタット アタック」の冊子も作成、普及に取り組んでいく。役員改選では藤澤理事長以下、役員を再任し、新任理事に清水健司氏が選任された。

総会後に講演を行った中川氏は、国土交通省が新耐震基準以降の既存木造住宅の簡易耐震診断法を公表したことで、ウォールスタットを利用した既存住宅の耐震性能診断ソフトの開発など今後の方向性を示した。